

「IT部門」としての戦略について

先進性に富んだ既存のシステムインフラを駆使して、次世代金融ビジネスへのIT活用を強化。

1. IT部門を取り巻く環境と役割

日本版ビッグバンの本格化による、他業態を含めたこの厳しい競争の時代において、バンク、各グループにおける事業戦略とそれを支えるIT戦略が極めて重要であり、そのIT戦略を担当しているのが、決済・テクノロジーグループ「IT（インフォメーションテクノロジー）部門」です。

これまでも当行は、多摩地区に新たなコンピュータセンターを建設したり、国内の各拠点を結んだ専用ネットワークを構築するなど、システムインフラの整備を先行して実施してきました。

ATM24時間サービスやコンビニエンス・ストアにおける現金引き出し、大型スーパーマーケットへのインスタブランチ出店など、お客さまのニーズにあったサービスを提供していくためには、それらのニーズに柔軟に対応するためのシステムインフラの整備を戦略的に実施する必要があります。

また、当行は他行に先駆けて、『富士サイバーバンク』『富士マルチメディアバンク』『富士テレホンバンキング』などの最新技術を活用した先進的なチャネルの構築も実施して



きました。このような先進的な取り組みが認められ、平成9年度には情報化促進貢献企業として都銀では初めて通産大臣賞を受賞するなど、当行はITを活用した分野で業界をリードし、邦銀トップクラスの地位を築いています。



2. 具体的戦略と今後の課題

21世紀に求められるのは、単に事務処理を合理化するためのシステムではなく、顧客ニーズを把握・分析するための個人顧客データベースなどの経営戦略を支えるシステムであり、まさにITの活用度の差が、企業としての実力の差になって現れてくるものと考えています。

従って、当行は既存のシステムインフラを活用し、バンク、各グループの事業戦略を支えるシステム開発を推進していくとともに、新しいITの次世代金融ビジネスへの活用や、現行業務への適用領域の拡大にも積極的に取り組んで



いきます。

さらに、すでに邦銀トップクラスである、ファームバンキング、キャッシュマネジメントサービス、カストディ、外為円決済代行、貿易金融EDIなど、ITを基盤とする各種決済ビジネス分野への取り組みを、「決済部門」と連携し一層強化していきます。

また、今後のシステム開発においては、ますます多様化・高度化していく金融業務に対応していくことが必須条件となりますが、これについても、専門性・多様性のある人材の育成などにより、より高付加価値なシステム開発を目指していきます。

お客さまへ、 ワン・モア・アイデアの実践。

富士銀行はお客さまのほしかったアイデアをどんどん発表中です。

例えば、キャッシュカード。世界のATMでその国のお金を、引き出せるようにしたり、
お店で現金のように使えるようにしたり。

また、銀行の中だけではなく、あなたのお宅へも、アイデアを広げていきます。

ご期待ください。そして、お気づきのこと、教えてください。

